

論文タイプ

日本感性工学会では、感性工学に関連する分野・課題・方法論の多様性に鑑み、以下のように論文は A ~ J のタイプを設けて査読の方針を想定している。但し、これは典型的なタイプ分けであって、これらの中間形を排除するものではない。

- A. **技術報告論文/Technical Research:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決する手法や適用方法に新規性があり、その有効性が、論証あるいは実験結果により示されている。
- B. **開発報告論文/Industrial Application:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために新たに手法あるいは開発過程に新規性のあるシステムを開発しており、そのシステムの有効性や問題点が、実験結果により示されている。
- C. **解決型実験報告論文/Experimental Research:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために考案・改良した手法に新規性があり、その問題に適合するための手法上の工夫がなされていて、その手法の有効性と問題点が、実験結果により示されている。
- D. **実験手法開発型論文/Experimental Methodology:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決、あるいは、その問題の性質を分析するために新たに実験を計画して実施しており、その実験手法の有効性と問題点が、実験結果により示されている。
- E. **現象発見型実験報告論文/Exploring New Phenomena:** 取り組んだ問題や実験の手法・手順が明確に示され、既知の理論や知見、実験結果、予想では説明できない現象が観測され、その現象を解明・解決することで、新たな科学・技術・文化・産業への貢献が期待される。
- F. **実問題解決論文/Practical Solution:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決する方法論そのものに新規性あるいは工夫があり、その方法論の有効性が、実証・実践により示されている。
- G. **実践報告論文/Practical Application:** 取り組んだ問題が明確に示され、その問題を解決するために考案・改良した手法に新規性があり、その問題に適合するための手法上の工夫がなされていて、その手法・方法論の有効性と問題点が、実証・実践により客観的に示されている。
- H. **事例分析論文/Case Study:** 対象とした事例・その分野が分析の対象としては初めてであり、その事例を分析するために新たな視点・手法・方法論などが工夫されており、有効な知見や新たな問題点の認識が、分析を通じて示されている。
- I. **問題提起論文/Proposal of New Research Topics:** 対象とした問題・その分野や社会的背景が明確に示され、その問題に新規性があり、その問題が当該論文で明確に定義・定式化されており、その問題を解決することの重要性の説明・考察が示されている。
- J. **サーベイ論文・解説論文/Deep Survey:** 対象とした問題・その分野や社会的背景が明確に示され、十分な数の論文・文献・事例を調査・分析している。